

# 支店長の わがまち紹介 第60回



JRA美浦トレーニング・センター

## 美 浦 村

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県稲敷郡美浦村です。美浦支店長が美浦村長 中島栄氏にお話を伺いました。

美浦村は「筑波経済月報」第12号（2014年7月）第12回本コーナーにて紹介させていただきました。改めまして、本村の魅力や特徴についてお聞かせください。

### ■JRAトレーニング・センターのあるまち

本村最大の特徴は、本村と滋賀県栗東市に所在する日本中央競馬会（JRA）のトレーニング・センター（以下、「トレセン」という）が立地していることです。

施設内には約100の厩舎きゅうしやがあり、常時2,000頭余りの競走馬がレースへ向けて調教されています。そのため、騎手、調教師、厩務員などとその家族がトレセン内で暮らしており、また、周辺地区にも関係者が多く住んでいるため、トレセンによって生活環境が支えられている家庭が多いまちであるといえます。

しかし、厩舎建築から既に40年が経過するトレセンでは、残念なことに、厩舎建替の際に調教



美浦村長  
中島 栄氏



美浦支店長  
元尾 隆也

師の住居をつくらないことが決定しています。現在、トレセンには約100人の調教師が在籍していますが、家族を持つ調教師は村外に住宅を購入して住みはじめているため、本村の村民税は年々減少傾向にあります。

### ■トレセンの敷き藁でつくる質の高い農作物

本村の特産であるマッシュルームは、芳源マッシュルーム株式会社（本社：千葉県香取市）が本村内のプラントで生産・販売を行っています。同社には茨城マッシュルーム組合が撤退する際、「美

浦のマッシュルーム」生産を引き継いで頂き、大変感謝しています。また、同社は本村と香取市を合わせると年間22億円の売上げを誇り、生産量、品質ともに業界トップの企業です。本年2月に発表された「第47回 日本農業賞」(JA全中、NHK主催)では、個別経営の部で大賞を受賞しました。

ヨーロッパのマッシュルームは、麦藁を原料とした敷き藁を堆肥として生産されていますが、「美浦のマッシュルーム」は、トレセンの厩舎で使用された稲藁を原料とした堆肥を使用していることが特徴です。稲藁の敷き藁は、麦藁の敷き藁よりマッシュルームの栽培に適しており、本村は栽培に適した条件が揃っています。



トレセンの厩舎で使用された敷き藁を堆肥に育てたマッシュルーム

### ■街灯のLED化で電気料金を削減

まちの防犯で非常に重要な役割を果たす街灯の費用負担割合は、各自治体によって様々ですが、本村では設置・修繕の費用、電気料金の全てを村が負担しています。

今後も村民が負担せずになれるようにと、電気料金の引き下げを目的に、約2,800灯ある村内全ての街灯をLED化させたことで、電気料金を半減させることができました。

さらに、メーカーには長期保証をつけてもらいました。導入したメーカーの仕様書による耐用年数は4万時間で、これは街灯として使用することを前提に計算した場合、約10年になるため、8年以内に壊れたときは、機器を無償で提供してもらえるようお願いしました。これにより、8年間はメンテナンスフリーで、電気料金はこれまでの半額、そして夜道も明るくなり、まちの防犯を高めることができました。

これ以外にも、民間企業へ委託することでコスト削減ができると考えていた業務がありますが、

委託先が絞られてくると徐々に金額が上がってることが分かりました。今後は社会福祉協議会やシルバー人材センターなども活用しながら、コスト削減に努めたいと思います。

今後の展望に向けてお聞かせください。

### ■地域交流館みほふれ愛プラザ

「みほふれ愛プラザ」は、地域の交流拠点となる施設です。5年ほど前から県と協議を重ね、施設の設置とともに、同敷地内に民間の商業施設を誘致する計画を立てました。

その後、平成27年12月に「小さな拠点づくり」の事業採択を受け、昨年3月26日の竣工式には、計画採択時の内閣府特命担当大臣(地方創生担当)である石破茂氏や竣工式当時の茨城県知事である橋本昌氏が出席され、大変盛り上がりしました。



みほふれ愛プラザ

交流館には館内でのイベントや本村の観光情報などを発信する「情報提供スペース」をはじめ、子育て相談や親子が楽しめる「子育て支援センター」、本村の美味しさが詰まった「地域産品直売所」、「イトインコーナー」のほか、村民や来訪者が自由にくつろげる「交流サロン」や「テラス」、会議や会合などで使用できる「研修室」などがあります。

本村を通る国道125号は、鹿嶋市から栃木県の工業団地をつなぐ幹線道路で、1日の平均交通量は17,000台程度です。これは国道4号の交通量に比べると半分以下の数字です。そのため、本村に道の駅の建設は望めないだろう、もし、作るのであればそれほど大きくない直売所のようなものだと考えていました。

しかし、昨年4月3日から10月12日までの約半

年の間に、「子育て支援センター」では延べ1万人を超える方の利用がありました。これは同センターが未就学児とその保護者が一緒に遊んで交流できる場であるだけでなく、保護者の都合・要望、子どもの生活リズムなどに合わせ、協力会員が様々な預かり支援などを実施しているからであると思っています。加えて、本村民以外の方も利用できるため、より多くの方々の利用に繋がったと感じています。



みほふれ愛プラザの地域産品直売所で大人気のイチゴ

また、「地域産品直売所」では、地元の質の高い農産品が安価で購入できるため、多くの方に親しまれています。特にイチゴの人気が高く、イチゴの出荷時期と他の時期とを比べると1日の売上げが約10万円も変わります。本村で生産されるイチゴはもともと糖度が高く美味しいのですが、直売所で販売しているイチゴは、完熟したものを収穫したその日に生産者が直接納入しているため、より新鮮で美味しいです。朝、販売を開始すると、午前中には完売します。イチゴは12月から2月頃が特に美味しいため、本村以外の方にもぜひこの時期に味わってほしいと思います。

直売所の売上げは順調に伸びていますが、当初の目標値まではまだ若干の開きがあります。本村の農協であるJA茨城かすみも非常に頑張っていますが、来年2月にJA土浦、JA竜ヶ崎と合併するため、動向が気になるところです。今後はさらに差別化を図るなどして、売上げの向上を目指したいと考えています。

現在、みほふれ愛プラザに隣接する商業施設はスーパーマーケットのカスミだけです。しかし、今年8月に交差点の改良工事が完了すると、稲敷市へ抜ける約17,000台の車両がほぼ国道125号バイパスを通ると考えられ、同地区の魅力度は向上すると見えています。さらに、道路をはさんだ

南東隣接地に他の業種の店舗がいくつか入れば、カート1つで買い物ができるようなショッピングセンターになり、本村民だけでなく、近隣地域の方なども魅力を感じ、利用してくれるのではと期待しています。今後も商業施設、サービス施設の誘致に力を入れていきたいと思っています。

### ■パプリカ栽培日本一を目指して

茨城県のパプリカの生産量は、現在、第2位ですが、あと200tほどで宮城県を抜き、トップに輝きます。県内では本村以外でも生産していますが、1つの自治体の生産量で見ると、本村が一番です。

本村のパプリカは溶液栽培施設で栽培しているため、非常に肉厚です。また、コンピューターシステムで室内温度や湿度を制御するほか、作業員ごとの収穫量なども管理しています。現在、生産を申し出ている会社があり、期待しています。

今後さらに力を入れ、日本一を目指したいと思っています。



肉厚で美味しいパプリカ

### ■筑波銀行に期待すること

4年前に、本村の指定金融機関を輪番制に変えたことで、金利などの選択肢が増え、財政面でも非常によかったと思っています。銀行も本村も努力して、お互いのサービスを向上できるのではないのでしょうか。

また、役場に店舗外出張所を設置していただいたおかげで、土日もATMを利用できるようになり、ありがたく感じています。

来年農協が合併するにあたり、銀行からいただく情報や提案などが、様々な面でさらに重要になってくると思っています。今後もしよろしく願います。

取材日：平成30年4月26日  
写真提供：美浦村